

## 指定管理者の管理運営に対する評価シート

所管課	農林水産部 地域農業振興課
評価対象期間	令和2年4月1日～令和3年3月31日

## 1 指定概要

施設概要	名称	大分農業文化公園及び大分県都市農村交流研修館	施設種別	農林業振興
	所在地	杵築市山香町大字日指1番地1		
	設置目的	(大分農業文化公園) 豊かな自然と親しみながら農業・農村の文化等に関し学習する機会を提供することにより、農業・農村及び自然環境に対する県民の理解を深めるとともに、新しい農業・農村づくりに資する。 (大分県都市農村交流研修館) 都市と農村との交流の促進を図るとともに、農村女性の能力の開発及びネットワークの形成に資する。		
指定管理者	名称	(公社)大分県農業農村振興公社		
	代表者名	理事長 光長 伸彦		
	所在地	大分市舞鶴町1丁目4番15号		
指定管理業務の内容	①施設等の利用、農業・農村に係る情報の提供、都市と農村との交流の促進、研修に関する業務 ②農業文化公園及び都市農村交流研修館の施設等の維持管理及び修繕に関する業務 ③農業文化公園及び都市農村交流研修館の利用受付及び案内に関する業務 ④農業文化公園及び都市農村交流研修館の利用の許可に関する業務 ⑤農業文化公園及び都市農村交流研修館の利用の促進に関する業務 ⑥その他知事が特に必要と認める業務			
料金制度	利用料金 ・ 使用料 ・ 該当なし			
指定期間	平成28年4月1日～令和3年3月31日(5年間)			

## 2 評価結果

評価項目及び評価のポイント	
1	施設の設置目的の達成(有効性の向上)に関する取組み
	(1)施設の設置目的の達成
	①計画に則って施設の管理運営(指定管理業務)が適切に行われたか。また、施設を最大限活用して、施設の設置目的に沿った成果を得られているか(目標を達成できたか)。
	②施設の利用者の増加や利便性を高めるための取組みがなされ、その効果があったか。
	③複数の施設を一括して管理する場合、施設間の有機的な連携が図られ、その効果が得られているか。
	④施設の設置目的に応じた効果的な営業・広報活動がなされ、その効果があったか。
	【所見】 〈大分農業文化公園〉 ○ 令和2年度の入園者数は243,670人で、令和元年度より50,043人減少し、目標指標330,000人に対する達成率は73.8%となった。これは、新型コロナウイルス感染症拡大防止策として、一番のかき入れ時であるGWを臨時休園したことが非常に大きい要因として挙げられる。また年間を通しての新型コロナウイルス感染症拡大防止策で、様々なイベントの広報や実施自体を自粛せざるを得ない状況が続き、各施設営業時間や規模を縮小した運営継続も要因である。 ○ 一方で、新型コロナウイルス感染者数が減り始めた下半期は、V字回復と言える過去最多入園者数を記録することができた。コロナ禍で密になりにくい屋外のみどりの広場でのイベント開催等を拡大したことが背景にある。そうした背景の中で、日頃からの広報活動が実を結び、10月に見頃を迎えた真紅のコキアは特に話題を集め、マスコミにも多く取り上げられたことが最たる要因と捉えている。なお、10月単月入園者数は61,429人と開園年度に次ぐ数を記録した。また、「おすすめスポット」として県内および福岡県等から観光バスツアーを誘致し、観光資源としての活用も進んでいる。

- 計画的な植栽のゾーニングによる見所づくりなど、ニーズと施設の特性を生かした入園者数の増加に向けた取組みを行っていることは評価できる。また、花だけではなく、アウトドア需要に対応したフリーサイトキャンプ場の予約を8月から開始し、好評を得ている点や、ミニ動物園の拡充を行い利用が少ないエリアに新たな見所を作っている点など、インフラの整備と併せて、集客に繋がる広報しやすい活動を次々行っていることも評価できる。
- 営業・広報活動については、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、例年実施しているイベントについては自粛した。  
 ただ、ホームページやFacebookでの常日頃の情報発信は怠らず、緊急事態宣言等が緩和されたタイミングで、県内を中心にマスコミ及び企業に花の見所を情報提供し、旅行会社やフリーペーパーの活用など働きかけを行った。  
 ドローンで上空から撮影した花の映像等の動画紹介、ヤフートップページでのコキアの写真採用等をはじめ、マスコミに多く取り上げられ、公園ホームページへのアクセス数は今期指定管理の初年度である平成28年度の約1.9倍、19万と大きく伸びている。  
 〈大分県都市農村交流研修館〉
- 貸館人数制限や室内開催講座の中止および人数制限等が影響し、大幅に規模を縮小した形での実施とならざるを得なかったため、利用者数は大幅に減少した(対前年度比約76%減。R1:31,627人、R2:2,391人)。  
 ただ、コロナ対策を行いながら少人数でわかりやすく全般的に満足度の高い講座は提供できている点は、研修受講者の満足度の高さ(5段階評価で4.6)から見て取れるため評価できる。
- 利用者の増加を図る取組みとしては、次のような取組みを行っている。
  - ① 講座の案内パンフレットを前年度利用者に配布してリピーターの増を図っている。
  - ② 子供向け体験講座等の日程をイベント開催時に合わせることで、夏休みの自由研究向けに特化することなど、研修参加者のニーズの変化に対応した講座の編成を行っている。
  - ③ 県内の市町、JA、公民館、マスコミなどに加え、旅行会社や企業に貸館を積極的にアピールし、パンフレットを配布するなど利用率アップに向けて周知を図っている。

(2) 利用者の満足度

- |  |
|--|
| ① 利用者アンケート等の結果、施設利用者の満足が得られていると言えるか。         |
| ② 利用者の意見を把握し、それらを反映させる取組みがなされたか。             |
| ③ 利用者からの苦情に対する対応が十分に行われたか。                   |
| ④ 利用者への情報提供が十分になされたか。                        |
| ⑤ その他サービスの質を維持・向上するための具体的な取組みがなされ、その効果があったか。 |

【所見】

〈大分農業文化公園〉

- 令和2年度に農業文化公園の入園者を対象に実施したアンケートでは、34%が「大変満足」、54%が「満足」、11%が「普通」、1%が「不満」、「非常に不満」は0%と、約9割が満足の評価となっている。  
 令和元年度アンケート結果(満足以上85%)と比較しても、利用者の満足度の向上、不満の減少が見て取れる。  
 極めて高い水準での満足度が得られていると大変評価できる。
- また、アンケートの集計数が平成28年度:909件、29年度:1,000件、30年度:725件、令和元年度:3,393件に対して、令和2年度は4,687件と集計数が増加している点も評価できる。秋の行楽シーズンで見ごろを迎えたコキア鑑賞と同時期の県産肉応援キャンペーンが好評で、同時期のアンケート回収数も多かった。
- 利用者から要望の多かったフリーサイトキャンプ場の新設や、オートサイトキャンプ場の芝の張替えなど、サービスの改善に努めており、評価できる。  
 また、「みどりの広場」や「フリーサイトキャンプ場」は雨天後の水はけが悪く使用できない状態を改善するため、暗渠を埋め込み、利用者サービスの向上に確実に繋げている点も評価できる。

〈大分県都市農村交流研修館〉

- 屋内施設である研修館は、新型コロナウイルスの影響を大きく受けた。貸館人数制限や室内開催講座の中止および人数制限等が影響し、大幅に規模を縮小した形での実施とならざるを得なかったが、コロナ対策を行いながら少人数でわかりやすく全般的に満足度の高い講座は提供できている。  
 「受講定員充足率」は85%で初めて目標の95%を下回ったが、「研修満足度」は4.6と目標の4.5を上回った。
- 各講座の受講生にアンケート調査を行っており、講座受講生の声を反映して、毎年講座の内容の見直しを行っており、幅広いニーズに対応した講座編成が図られ、受講生の充足率や満足度が高いレベルで維持できていると思われる。  
 「食と農」、「食文化と農村に伝わる技術の伝承」を中心に、若い子育て世代をはじめとした多くの世代に、農業と食の大事さを楽しく伝えることができているが、参加率が低かった講座内容の精査、見直しは必要である。

## 2 効率性の向上等に関する取組み

## (1) 経費の低減等

- ①施設の管理運営(指定管理業務)に関し、経費を効率的に低減するための十分な取組みがなされ、その効果があったか。
- ②清掃、警備、設備の保守点検等の業務について再委託が行われた場合、それらが適切な水準で行われ、経費が最小限となるよう工夫がなされたか。
- ③経費の効果的・効率的な執行がなされたか。

## 【所見】

〈大分農業文化公園〉〈大分県都市農村交流研修館〉

- 施設の管理運営に関し、経費(主に光熱水費)を縮減するための取組がなされている。令和2年度の光熱水費は14,061,502円であり、令和元年度の17,110,164円から3,048,662円減少した(前年度対比約18%減)。これは新型コロナウイルス感染拡大防止のため、一部施設を利用休止した時期があることも要因であるが、日常の節減効果によるところも大きいと考えられる。
- 園内施設の設備保守等の再委託契約については、県にならい複数業者からの入札等を実施し、経費の縮減を図っている。  
清掃業務については、直営で職員による一斉清掃や、キャンプ場のゴミ箱集約化など、作業委託費用と職員の時間を削減する工夫を行っている。

## (2) 収入の増加

- ①収入を増加するための具体的な取組みがなされ、その効果があったか。

## 【所見】

〈大分農業文化公園〉

- 令和2年度の売上額は68,728,538円であり、令和元年度の86,803,310円から18,074,772円減少した。これは、トラムカーの営業を7月末まで停止したことや、GWの臨時休園、物産館カフェの席縮小、営業時間短縮などの新型コロナウイルス感染拡大防止策を行ったことが要因である。  
一方で、ふれあい市場の売上は6,742,271円(対前年度比131%。R1:5,147,284円)、東管理棟(物販)750,450円(対前年度比237%。R1:316,490円)と昨年度よりも伸びており、自転車利用も増収した。また、キャンプ、コテージ、ボートも想定よりは大きく売上を落とすことはなかった。
  - 入園者一人あたりの販売単価は282円であり、令和元年度の296円よりも減少している。  
キャッシュポイントを増やすことや、単価率の高いものを新たに検討することなどは、経営の観点からみると必要である。  
ただ、イベントに関連した商品の開発や、フリーサイトキャンプ場といった新たな収入源を創出していることは評価でき、コロナ禍では健闘している方だと考えられる。
- 〈大分県都市農村交流研修館〉
- 貸館利用料金収入は305千円で、令和元年度の941千円と比べ減少した。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、人数制限などを行ったことが要因である。
  - 施設の稼働状況は36.9%となり、令和元年度の47.9%と比べても11%減少した。コロナ禍で換気、消毒など様々な対応が必要な中で厳しい状況ではあるが、利用拡大の余地があり、より一層の利用拡大に向けた営業活動や講座内容見直しは継続して求められる。

## 3 公の施設にふさわしい適正な管理運営に関する取組み

## (1) 施設の管理運営(指定管理業務)の実施状況

- ①施設の管理運営(指定管理業務)にあたる人員の配置が合理的であったか。
- ②職員の資質・能力向上を図る取組みがなされたか。
- ③地域や関係団体等との連携や協働が図られたか。

## 【所見】

## 〈大分農業文化公園〉

- 入園者の多い土日祝日や、夏休み、コキアのシーズンなど繁忙期に人員を多く配置するなど、業務量に応じた体制としている。また、計画的に休みを取得できるようなシフト編成をしている。
- 月一度の全体会議、課内でのミーティングを継続しており、横の連携も強化し、職員一丸となって、来園者サービスの向上、満足度向上に努めている。
- 地域や関係団体等との連携や協働について、以下の取組みを行っている。
  - ・別府大学と提携し、夢米棚田プロジェクトの活動として、公園内の棚田で米及び七島イの植え付けから収穫を行った。
  - ・地域の自治会・学校など連携し、収穫体験などを実施し、地域との交流を図った。
  - ・地域の農業応援と関係強化のため、地元である上地区住民自治協議会との連携で、「新鮮産直市」を開催。
  - ・県の花きグループと連携して、ホオズキの栽培を行い県の研究に貢献するとともに、来園者に対する県産ホオズキへの関心を収穫体験等を通じて高めた。

## 〈大分県都市農村交流研修館〉

- 各種講座は地元の人材や食材を最大限に活用して実施している。また、農業団体、NPO、県などと連携した研修会や農山漁村女性グループと連携したイベントの開催など、目的に沿った適正な運営が継続して行われている。

## (2) 平等利用、安全対策、危機管理体制など

- ①関係法令(地方自治法、労働関係法令、通則条例、設置条例等)が遵守されているか。
- ②施設の利用者の個人情報を保護するための対策が適切に実施されているか。
- ③利用者が平等に利用できるよう配慮されていたか。
- ④施設の管理運営(指定管理業務)に係る収支の内容に不適切な点はないか。
- ⑤管理物件の修繕や日常の事故防止などの安全対策が適切に実施されていたか。
- ⑥防犯や事故等の危機管理体制、防災士の配置など、防災に係る体制が適切であったか。
- ⑦防災に関する研修・訓練が効果的に実施されていたか。
- ⑧事故発生時や非常災害時の対応などが適切であったか。

## 【所見】

- 変形労働時間制に関する協定届を提出するなど、関係法令は遵守されている。  
施設の利用受付においても、施設設置条例及び関連規程等を遵守し、利用目的を確認し、公平・平等な取扱いを行っている。
- 個人情報の取扱いについて、指定管理者策定の「個人情報保護規程」の徹底を図っている。個人情報が記載された書類についてはシュレッダーで裁断するなど個人情報の適正管理に努めているほか、入園者に対しても「個人情報のお取扱いについて」と題した情報セキュリティポリシーを園内に掲示し、その遵守に努めることとしている。  
なお、これまで漏洩等の事故は発生していない。
- 安全管理については、施設管理や防火管理、事故対応マニュアル等を整備するとともに、インフルエンザや食中毒、新型コロナウイルス等、特別の事象についても個別のマニュアルを整備し、災害等の発生時対応に備えている。  
施設・遊具等についても安全点検マニュアル、点検スケジュールを定めるだけでなく、職員による巡回点検を徹底しており、日常の事故防止などに努めている。
- 収入の増加に向けた取組と合わせ、経費節減にも常日頃から取り組んでおり、指定管理業務の事業実施はもとより、収支を含め適切に運営されていると判断できる。
- 防災訓練を、年2回、テーマを変えて実施するという工夫も見られる。  
①職員が全員揃った想定での訓練、②出勤する職員が少ない営業日を想定した訓練
- AEDを園内2箇所に設置しており、園内での事故に対しては、近くにいる職員がすぐに駆けつけ対応する体制を取っている。  
園内で具合が悪くなった方がいた際には、救急車等の呼び出しなどもスムーズに行い、トラブル等はなかった。

## 【総合評価】

## 〔所見〕

(大分農業文化公園)

- 施設の管理運営については、法令や規則、マニュアル等に基づき適正におこなわれていると評価できる。入園者数は目標指標に対して未達であるが、新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、1番のかき入れ時であるGWの臨時休園や、年間を通しての各施設の人数制限、営業時間短縮等が必要だった状況下で、来園者拡大、サービスの向上に向けた取組を着実に実行している。特に、植栽のゾーニングや、ニーズに沿った施設整備、地道な広報活動が実を結び、下半期の入園者数が開園年度に次ぐ実績となったことは大変評価できる。また、アンケート回収数も過去最多で、内容から利用者の満足度の高さもうかがえる。さらに、ホームページアクセス数が例年の2倍となり、注目度がアップしている。
- 設置目的にそって、大分県都市農村交流研修館らしさを追求した講座の内容と地域人材の活用を進めてきた結果、講座・研修受講者に農業の大変さ、楽しさや食の大切さなどを学んでもらう機会を多く提供できた。屋内施設ということもあり、コロナ禍で人数制限等多くの制約があった中だったが、しっかりとしたコロナ対策を取りながら、施設の特徴を生かして、ニーズを踏まえた講座の実施ができ、高い満足度を維持できた点は評価できる。

## 〔今後の対応〕

(大分農業文化公園)

- 新型コロナウイルス感染拡大防止対策を行いながら、イベントの工夫や広報活動の強化などに力を入れ、多くの人に訪れてもらえる公園づくりを行い、来園者数目標の達成と来園者満足度の高位安定を期待している。具体的には、四季折々の花の見所づくりやアウトドア関係のサービス充実などにより、自然・農業等に興味を持ってもらえる機会を提供できる公園となることを期待している。

(大分県都市農村交流研修館)

- 引き続き、農業をベースに独自性と質の高さを追求した展開と併せて、アウトドアなどの新たな需要にも対応できるような講座内容の検討も期待する。一般向けの賃館営業活動についても、コロナの感染状況等に留意しながら企業等に積極的な営業を行い、より一層の利用推進を期待する。